

## 開催までの足どりほか



住宅生産振興財団  
業務部長  
入戸野 昭 造

本住宅祭は、当財団および日本経済新聞社主催の、第一回住宅祭でありました。関係各位のご支援に対しまして茲に深くお礼申し上げますとともに、以下、当財団および参加八社の住宅祭開催までの足どりを述べてさせていただきます。

この事業の推進にあたった私ども財団事業部には財団がおこなう住宅祭の趣旨を如何に現場に具現するか、地場の協力は得られるのか、また一般大衆の方々に住宅祭を理解していただくにはどのような手だてでよいのか、といった多くの難問が横たわっていました。

それには、まず「大津日吉台住宅祭分科会」を発足させ、住宅祭の内容充実を力を注ぐべきだとの結論に達し、実行委員として次のメンバーの方々が8社の互選により決まりました。

委員長に大成建設(株)関西住宅部部長竹井明氏、副委員長に同じ大成建設(株)所長植松善三郎氏、幹事委員に同じく大成建設(株)課長串田武夫氏、委員に日本経済新聞社中島敏明氏、電通(株)竹健一氏等が選出されました。

さらに分科会には、以上の方々のほか出展8社からそれぞれの責任者の方がメンバーに加わり、住宅祭の企画および運営面にかゝわっていたべくことになりました。この分科会は、当財団が建設大臣により許可されるのと、ちょうど同じ日の七月十九日に発足いたしました。

分科会がまず企画した項目は、次のとおりでした。

(1) 8社が各5戸づつ建物を建築  
(2) その建物型式を含めた「出展基準」を作成

(3) 外構・植栽を含めた「デザインの調和」をはかる

(4) “この家のできるまで”と題した施工経過の「写真・パネル」の展示

(5) 各種催物と講演会の開催

そして、一団地の街づくり——街並み財団といわれる当財団の性格を

この40戸の住宅祭に如何に反映していくか、この点をめぐって分科会での討議は回を重ねることに盛り上りを見せてきました。

折しも、当財団が発足して旬日もたたぬ七月二十三日、日吉大社の神官を迎えて、本住宅祭の成功と工事の無事を祈願する地鎮祭が取り行われることとなりました。

当住宅祭の40戸は、住宅金融公庫融資付計画建売として展示分譲するという方針が、協業組合方式として主幹代表者大成建設(株)名義で認定頂け、七月二十七日建築着工の運びとなりました。

住宅祭オープンの十月二十日を期して、その後の80余日間は分科会委員各社責任者の方々には、大変な努力をして頂きました。しかし、その用途には有難い事も多くありました。

それは、後援者、協賛者の方々の当財団への御支援でありました。

本住宅祭の事業計画書には、地域住民の住生活の向上に寄与すると記されて居ります。その主旨目的にはじめ住宅祭開催を目的に努力して来た分科会の会員各社に、開催まであと20日という時期に田鍋当財団理

事長より、竣工、開催、運営が成功裡におこなわれるようにとの、勵ましいの書状が届けられ、現地は益々熱意を燃やして、日夜の作業と取組みました。

開催を明日にひかえた十月十九日、台風20号に見舞われました。それはこの住宅祭の出展建物をためすかのように、瞬間最大風速は40m/sを超えましたが、一件の事故もなく、全く無事に十月二十日の開催日を迎え、街並みを整えて全戸が竣工いたしました。

かえりみまして、すべて、御支援下さった建設省はじめ中央および地元の関係官公庁、協賛者の方々の御指導の賜と感謝に耐えませんが、有難とうございました。また、分科会、出展責任者の皆さん、この大津日吉台での熱意の輪を広げて下さい。

今后、全国各地に於いて、当財団の住宅祭が企画、運営されることになりませんが、私どもといたしまして、より一層財団の使命を自覚して、地域住民の方々に心から喜ばれる住宅祭を通じて、真の、住宅および住環境の向上に努力して行きたいと思